

(参考) 対象とした餌生物

淡水域

- ・イワナは、生活史を通してユスリカ類、カワゲラ類、トビケラ類等水生昆虫を摂餌しており、成魚期にはミミズ類やウグイ、ヨシノボリ類等魚類も捕食する。したがって、同種の成長・生息に重要な餌生物としてはユスリカ類、カワゲラ類、トビケラ類等の水生昆虫が挙げられる。
- ・ニジマスの稚仔魚期の摂餌生態については既往の知見では不明であったが、成魚期に水生昆虫、陸生昆虫、端脚類、ヒメマス等魚類を捕食する。また、湖沼では双翅類やユスリカ類を摂餌するとされている。したがって、ニジマスについてもその生息に必要な餌生物としてウグイ・オイカワ等と同様に水生昆虫が挙げられる。
- ・サケは淡水で生活する仔魚期にはユスリカ類、橈脚類等を捕食している。
- ・サクラマスは全生活史を通して水生昆虫や落下昆虫を食しているのをはじめ、魚類も摂餌している。したがって、本種の主要な餌生物としては水生昆虫が挙げられる。
- ・ヤマメは、既往の知見では生活段階毎の餌生物は不明であるが、陸生・水生昆虫、ワカサギ等魚類を餌生物にするとされている。したがって、ヤマメにおいてもその生息に必要な餌生物としてはイワナと同様に水生昆虫が挙げられる。
- ・ワカサギは、全生活史を通してワムシ類、ミジンコ類を摂餌する。また、成魚期には橈脚類や水生昆虫、魚類等多様な餌生物を捕食する。したがって、ワカサギの主要な餌生物としてはミジンコ類が挙げられ、未成魚期以降はこれに水生昆虫が含まれる。
- ・アユは沿岸で生活する仔稚魚期には橈脚類やそのノープリウス幼生、端脚類を食し、河川に遡上する未成魚期以降は付着藻類が餌生物の主体となる。したがって、淡水域での主要な餌生物としては付着藻類(藍藻・珪藻)が挙げられる。
- ・シラウオは仔魚期から稚魚期にかけて小型の橈脚類(コペポーダ)やそのノープリウス幼生を摂餌し、成魚期には小型の甲殻類や動物プランクトンを食する。したがって、シラウオの主要な餌生物としては仔稚魚期では橈脚類、成魚期では小型の甲殻類が挙げられる。
- ・コイは、稚魚期にはワムシ、ゾウリムシを、成魚期には雑食性となり、ユスリカ類など水生昆虫や貝類、水草、デトリタスを食する。したがって、コイの餌生物としては、稚仔魚期はワムシが挙げられる。また、成魚期は雑食性となり、特定の種類に限定することはできない。
- ・フナ類のうち、ゲンゴロウブナの餌生物をみると、仔魚期は小型のミジンコ、

稚魚期が植物プランクトン、ミジンコ、ワムシ、付着珪藻、未成魚期がミジンコ類、ワムシ、植物プランクトン、付着珪藻、成魚期にはこれら種類に加えて昆虫幼生が餌生物となる。フナ類の生活史の中で最も自然死亡の高い仔魚期の餌生物として重要な種類としてはミジンコが挙げられる。また、未成魚期以降の餌生物は、多様な種類を捕食している。

- ・ウグイは仔魚期に藻類を餌生物とすることが報告されており、その他、成長差段階は不明ながら、ユスリカ類、カゲロウ類幼虫、昆虫成虫等を摂餌するとされている。したがって、ウグイの生息に必要な餌生物としては藻類と水生昆虫が挙げられる。
- ・オイカワは、仔魚には橈脚類、稚魚期から成魚期には付着藻類（藍藻・珪藻）、水生昆虫、ワムシを食する。したがって、オイカワの生息に必要な餌生物としては、仔魚期では橈脚類、成魚期では付着藻類（藍藻・珪藻）、水生昆虫が挙げられる。
- ・ウナギは仔魚期には橈脚類を摂餌し、稚魚期には魚類や動物プランクトンを食する。また、未成魚期以降には水生昆虫やエビ・カニ類、ゴカイ類等多様な餌生物を捕食する。したがって、ウナギの主要な餌生物としては仔稚魚期では橈脚類に代表される動物プランクトン、未成魚期以降は水生昆虫や甲殻類が挙げられる。
- ・ドジョウは、稚魚期に小甲殻類、未成魚期には小甲殻類とイトミミズ類、付着珪藻、成魚期には付着珪藻を摂餌する。したがって、ドジョウの生息に必要な餌生物としては、付着珪藻が挙げられる。
- ・ボラは、仔魚期は海洋性の橈脚類、稚魚期には珪藻や藍藻、ワムシ等多様な餌生物を捕食し、成魚になると雑食性となり、特定の種類に限定することはできない。
- ・ハゼ類（ヨシノボリ）は稚魚期に水生昆虫、付着珪藻を食するほか、未成魚期以降にはユスリカ幼虫を捕食する。したがって、同種の主要な餌生物としては水生昆虫が挙げられ、稚魚期はこれに付着珪藻が含まれる。
- ・カジカの摂餌生態に関する知見は少ないものの、未成魚期にユスリカ幼虫、成長段階は不明なものの陸生・水生昆虫や魚類のワカサギ等を食するとの知見がある。したがって、カジカについては水生昆虫が主要な餌生物と考えられる。
- ・ナマズの餌生物に関する知見は現在のところ蓄積していない。

## 海域

- ・イワシ類（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ）は、仔魚期（シラス）にサバ類と同様、橈脚類のノープリウス幼生、コペポダイト幼生等を捕食し、稚魚期には橈脚類に加えてオキアミ類や貝類の幼生等を食する。成魚期には鰹

耙の構造が複雑となり、橈脚類に代表される動物プランクトンに加えて、珪藻等の植物プランクトンを摂餌する。したがって、イワシ類の重要な餌生物としては稚仔魚期が橈脚類、成魚期は橈脚類と珪藻類が取り上げられる。

- ・アジ類は、仔魚期に橈脚類のノープリウス幼生、コペポダイト幼生等を捕食し、稚魚期には橈脚類に加えて、植物プランクトンの珪藻等を食する。また、成魚になると、魚類やオキアミ、アミ類等、多様な生物を摂餌する。したがって、アジ類の重要な餌生物としては稚仔魚期では橈脚類と珪藻が挙げられるものの、成魚期は多様な生物を食している。
- ・サバ類は仔魚期に橈脚類のノープリウス幼生、コペポダイト幼生等を捕食し、稚魚期には橈脚類に加えて魚類仔魚や植物プランクトンを食する。また、成魚になると、大型の橈脚類やオキアミ、魚類等他種の生物を摂餌する。したがって、サバ類の重要な餌生物としては稚仔魚期が橈脚類、成魚期は橈脚類、オキアミが挙げられる。
- ・カレイ類（メイタガレイ、マコガレイ、イシガレイ）は、仔魚期に橈脚類のノープリウス幼生、珪藻、貝類等を捕食し、稚魚期には橈脚類に加えて、多毛類等を食する。また、成魚になると、魚類、多毛類や貝類等、多様な生物を摂餌する。したがって、カレイ類の重要な餌生物としては稚仔魚期では橈脚類が挙げられるものの、成魚期は多様な生物を食している。
- ・タラ類（マダラ、スケトウダラ）は、仔魚期に橈脚類の卵、ノープリウス幼生等を捕食し、稚魚期には橈脚類に加えて、オキアミ類等を食する。また、成魚になると、魚類、エビ類やオキアミ類等、多様な生物を摂餌する。したがって、タラ類の重要な餌生物としては稚仔魚期では橈脚類が挙げられるものの、成魚期は多様な生物を食している。
- ・タチウオ、ブリ類、サケ類等他の主要魚類の食性をみると、仔稚魚期は他の魚類と同様に橈脚類に代表される動物プランクトンや一部珪藻に代表される植物プランクトンを摂餌する。成魚期は消化器官や捕食器官の発達に伴い、魚食性あるいはベントス食性になり、多様な餌生物を食する。したがって、これら魚類についてもアジ類、タラ類と同様に、稚仔魚期には橈脚類や珪藻類に代表されるプランクトンを摂餌するが、成魚では多様な餌生物を食している。